

講義名称	幼児理解と教育相談
開講責任部署	大学
講義区分	講義
基準単位数	2.0
科目群（区分）	専門展開
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り
開講時期	3年前期
必修・選択	必修
卒業認定・学位授与の方針との関連	子ども福祉学科（3）

所属名称	ナンバリングコード
金城大学人間社会科学部子ども教育保育学科	24100311

担当教員

氏名	所属
◎ 三宅 右久	大学・人間社会科学部・子ども教育保育学科

授業概要	幼稚園教諭・保育士にとって必要な基礎理論および相談・援助の方法について講義する。幼児の特性の理解を深め、幼児期の発達、幼児への発達支援、保護者への援助・対応、教育相談活動と専門家との連携について事例を取り上げながら理解していく。
到達目標	幼児期の発達を理解し、子どもへの発達援助を説明できる。保護者への対応を理解し、子育て支援の視点から説明できる。教育相談活動と専門家との連携について理解し、説明できる。

授業計画表

授業計画表

第1回	【授業計画】	オリエンテーション 子どもを取り巻く環境	
	【事前事後学修の内容】	子どもを取り巻く環境についてテキストのP10-12を予習	【事前事後学修時間（分）】 60
第2回	【授業計画】	相談ニーズとカウンセリングマインド	
	【事前事後学修の内容】	前回の復習とテキストのP13-17を熟読し、相談ニーズとカウンセリングマインドについて下調べをする	【事前事後学修時間（分）】 60
第3回	【授業計画】	乳児の発達理解と相談・支援	
	【事前事後学修の内容】	前回の復習とテキストのP18-21を熟読し、乳児の発達理解と相談・支援について下調べをする	【事前事後学修時間（分）】 60
第4回	【授業計画】	1歳以上3歳未満児の発達理解と相談・支援	
	【事前事後学修の内容】	前回の復習とテキストのP21-24を熟読し、1歳以上3歳未満児の発達理解と相談・支援について下調べをする	【事前事後学修時間（分）】 60
第5回	【授業計画】	3歳以上児の発達理解と相談・支援	
	【事前事後学修の内容】	前回の復習とテキストのP24-28を熟読し、3歳以上児の発達理解と相談・支援について下調べをする	【事前事後学修時間（分）】 60

第6回	【授業計画】	
	保護者への対応	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP29-43を熟読し、保護者への対応について下調べをする	60
第7回	【授業計画】	
	発達障害や気になる子ども	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP44-51を熟読し、発達障害や気になる子どもについて下調べをする	60
第8回	【授業計画】	
	発達検査・知能検査	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	関連科目の該当内容の復習し、発達検査・心理検査について下調べをする	60
第9回	【授業計画】	
	発達障害や気になる子どもの保護者へのかかわり	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP52-58を熟読し、発達障害や気になる子どもの保護者へのかかわりについて下調べをする	60
第10回	【授業計画】	
	子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP59-69を熟読し、子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチについて下調べをする	60
第11回	【授業計画】	
	カウンセリングの基本的事項	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP70-77を熟読し、カウンセリングの基本的事項について下調べをする	60
第12回	【授業計画】	
	カウンセリングの技法	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP77-89を熟読し、カウンセリングの技法について下調べをする	60
第13回	【授業計画】	
	専門家との連携による相談・支援	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP90-103を熟読し、専門家との連携による相談・支援について下調べをする	60
第14回	【授業計画】	
	保育者の専門性と相談活動	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP104-114を熟読し、保育者の専門性と相談活動について下調べをする	60
第15回	【授業計画】	
	基礎的対人関係のトレーニング	
	【事前事後学修の内容】	【事前事後学修時間（分）】
	前回の復習とテキストのP115-130を熟読し、基礎的対人関係のトレーニングについて下調べをする全体の復習	60

履修に必要な予備知識や技能

- ①実習で関わった子どもの姿からその年齢の発達特性を整理しておくこと
- ②実習等で見聞した保護者に対する相談等の援助をまとめておくこと

課題に対するフィードバック	小テスト及び課題レポート実施の翌週に振り返りを行う。
評価方法・基準	小テスト40%、課題レポート提出30% 授業への参加度30%
教科書	教科書：「子どもの理解と保育・教育相談」小田豊、秋田喜代美編（みらい） 教科書の該当ページを開きながら、解説する。
備考	小テスト及び課題レポートにより、知識の定着を図る
実務経験の内容・期間	家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司16年（心理判定係長15年） 児童相談所担当所長2年 臨床心理士22年 公認心理師6年